



## 長

### フォーク事故発生

野島木島平（きじまだいら）村で父親の運転するフォークリフトの爪の部分に乗っていた小学生の子どもが落下し、足をひかれて大けがをしました。

事故があったのは木島平村往郷（おうごう）の村道で、27日午後3時45分頃、近くに住む農業の33歳の男性がフォークリフトの爪の部分に小学校2年の息子を乗せて運転したところ、息子が落下し、フォークリフトに左足をひかれました。息子は病院に運ばれましたが、左足の骨を折る重傷です。警察によりますと、息子はフォークリフトで荷物などを持ち上げる爪の部分に立ち、運転席の父親の方を向いて乗っていたということです。また、フォークリフトは村道の坂を下る方向に進んでいたということです。人を乗せるのは言語道断です。



## 北

### 高架下の交差点では橋脚の死角に注意

海道札幌市の高架道路下の交差点を直進していた乗用車と、反対車線から右折してきた乗用車が衝突し、4人が負傷する事故がありました。交差点を直進する車と右折車が衝突する、いわゆる「右直事故」は、どのような交差点でも多発しているのですが、とくに高架道路下にある交差点では注意が必要です。

というのは、高架下の道路には高架を支える大きな橋脚があり、その間を道路が交差しているために、直進車から見れば橋脚が死角になって右折してくる車が見えにくくなります。これは、右折車にとっても同様で、橋脚が死角になって直進してくる車が見えにくくなります。ということは、交差点を直進する車、右折する車の双方が、右折車はいない、直進車はいないと思って交差点を進行している可能性があり、出会い頭に衝突するリスクが非常に高くなります。ですから、高架下の交差点を走行するときには、直進時、右折時ともに橋脚の死角に対向車が隠れているということを強く意識しておく必要があります。高架下の交差点を走行する際には、橋脚の死角を常にチェックするようにしてください。

## 冬

### 西日で前方が見えないときは要注意

の時期は、太陽光の角度が低い位置にありますので、運転していると前方から西日や朝日が入ってきて非常に見えにくい状態になることがあります。そのため、横断歩道を渡ってきた歩行者などを見落として衝突する事故が少なくありません。事故を起こした運転者は、たいてい「西日が眩しくて、信号機と歩行者が見えなかった」などと言い訳をしているのですが、見えていないのに、なぜスピードも落とさずに交差点に進入したのだらうと暗澹たる気持ちになります。

運転中に西日を遮るには、まずサンバイザーを降ろす必要がありますが、それだけでは十分ではありませんので、サングラスを併用すると効果が期待できます。また、通り慣れた道路の場合には、西日や朝日が運転席に入り込む時間帯、道路区間などは、経験的にわかるといいますので、対策としてはその時間帯にその区間を走行しないで迂回路を考えることも一つの方法だと思います。西日などで、前方の視界が十分に確保できないときは、スピードを落として運転するようにしてください。